

その39 山田

(平成13年8月15日号—第214号)

今回紹介する山田は、穂谷川左岸一帯に広がる地域で、本市のほぼ中央に位置しています。また、国道1号と府道杉田口禁野線が交差する交通の要衝です。

この地域は、『和名鈔』[わみょうしょう]に記されている山田郷に比定[ひてい]され、9世紀に諸氏の系譜を集成した『新撰姓氏録』[しんせんしょうじろく]には、山田宿禰[すくね]、山田連[むらじ]、山田造[みやつこ]など山田郷と関係すると見られる氏が記されています。

その後、郷名はすたれましたが、明治5年(1872)田口の氏神である天神社が、山田池の北東にあった春日社を合祀して山田神社と改称し、古代の郷名が復活しました。続いて明治22年(1889)甲斐田・片鉾・田口・中宮の4村が合併してできた新村は、山田村と名付けられました。しかし、この山田村の名も昭和13年(1938)枚方町など6町村が合併した際になくなり、今では、小学校、中学校、神社、公園などにその名を残すだけとなりました。

山田と聞いて頭に浮かぶのは、山田池ではないでしょうか。山田池は鴨池として有名で、カモの狩猟権を入札していました。カモが数万羽飛来して池面を埋め尽くしたので、無双[むそう]という網で捕獲していました。近年は周辺が開発され、飛来数も激減しました。



66 山田池浮御堂

現在の山田池は、府立公園として整備され、季節を問わずいろいろな野鳥を観察することができ、早朝にはバードウォッチングを楽しむ人を見かけます。また、池の一角には、花菖蒲[はなしょうぶ]園があり、花の季節には多くの市民が訪れる憩いの場となっています。